

## カンキツかいよう病（病原菌：Xanthomonas campestris pv. citri）

### ○ 被害と発生生態

細菌によって起こる病気であり、果実、葉、枝などに発生する。多発すると落葉や枝枯れが生じ、樹が衰弱する。被害果実の商品価値は低下する。

病原菌の越冬伝染源は前年に葉や枝に形成された病斑で、秋に形成された病斑や潜伏越冬病斑における病原菌の増殖力が最も強い。病原菌は雨によって飛散し、初めに越冬葉、その後新梢に感染する。新しい病斑では病原菌の増殖が旺盛であり、二次伝染源となって果実や夏秋梢に感染する。

病原菌の侵入は、伸長・肥大期には主として気孔からで、主な感染期間は春葉では5月上旬から6月中旬、果実では5月下旬から9月下旬頃までである。それ以降は風やハモグリガなどによってできた傷口から侵入する。園内の平均風速が秒速6 mを超えると、感染が急激に増加する。

### ○ 防除方法

#### （ア）耕種・物理的防除

- ・防風垣、防風ネットの整備など、防風対策を行う。
- ・ほ場を定期的に見回り、発病した枝や葉を取り除く。
- ・夏秋梢はミカンハモグリガの被害が発生しやすく、本病の発生を助長するのでできるだけ除去する。夏秋梢を残す場合にはミカンハモグリガの防除を徹底する。
- ・伝染源となる抵抗性の弱い品種を園内に混植しない。

#### （イ）薬剤防除

- ・薬剤防除は、発芽前、開花前、落花直後、6月下旬の予防散布が重要である。台風が来襲する場合には事前に薬剤散布を行う。

### カンキツの品種とかいよう病抵抗性

抵抗性の程度	品 種 名	防除
極弱	「レモン」、「南津海*」、「ナツダイダイ」	必ず防除を行う
弱	「大島1号**」、「長門ユズキチ**」、「宮内イヨ」	必ず防除を行う
中	「温州ミカン」、「せとみ**」	発生が見られる園では防除を行う
強	「キンカン」、「ユズ」	防除の必要はない

注1) 山田ら(1978)を一部改変、注2)\*:周防大島町 山本公三氏育成品種、\*\*:山口県オリジナル品種



葉の病斑（宮内イヨ）

果実の病斑  
（宮内イヨ）

夏秋梢  
（グレープフルーツ）

枝の病斑（レモン）